

Libro de Apolonio IV

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The legend of Apollonius originates from a type of fictive literature known as the Greek romance, which was cultivated by the Greek-speaking people of the Mediterranean during the first and fourth century. Although it was translated into Latin and romance languages, the original text in Greek was lost.

The Spanish version appeared in the thirteenth century, written seemingly by an unknown cleric in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), a style of which has been called *mester de clerecía* (scholars' art), as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time, strophe 570 to 656 (the last one) is translated.

アポロニオの書Ⅳ

太田 強 正 訳

「アポロニオの書」は1世紀から4世紀にかけて流行した所謂「ギリシャ・ロマンス」が大元であるが、それがラテン語、ロマンス諸語へと訳され、スペイン語版は12世紀に出たようであるが誰の手になるのかは分っていない。ギリシャ語の原本も失われている。

スペイン語版は恐らくは聖職者が書いたものであろうと言われていて、メステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）に属するものである。これは中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派を意味し、文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。本作品はクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる1行14音節同音韻4行詩で書かれていて、656連からなるテュロスの王アポロニオの奇伝叙事詩である。

今回は570連から最後の656連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名は原文通りにスペイン語読みに、地名は日本で普通に行われている表記に従った。

訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳で

はあるが日本語訳も参考にした。

本稿は Clásicos Castalia の Libro de Apolonio Edición de Carmen Monedero に基づいている。

570 会議はアポロニオ王に借りがあるとしました
なぜなら本当に彼らに良い行いをしてくれたからです
彼に特別な賞を贈ろうという話になりました
彼がした忘れられない善行の故に

571 彼の等身大の像を作ることが命じられました
それは純金で、金銀細工師の手になるものでした
それを市場の真ん中に据えました
娘を高潔な父の足元において

572 台座に次のように記しました
《非常に慎重なアポロニオ王
一大嵐が彼をこの町にもたらした—
ここで非常に幸運にも娘のタルシアナを見つけた

573 娘が喜んだことには、病を脱し
彼女をこの町の領主アンティナゴラに与えた
非常に素晴らしい婚姻において彼に
広大なアンティオキアの王国を与えた

574 彼が来たことでこの町はとても豊かになった

欲しい人にはいくらでも与えた
世が続く限り、終わりが来るまで
ミタレナにおいて彼の名声は保たれるだろう》

- 575 アポロニオ王は苦悩が鎮まると
髭を三つ編みにしてテュロスに入ることを望みました
船に乗り込み、髭を整えました
誰もその豊かさを決して理解できないでしょう
- 576 道を辿っていて、方向を変えて
タルソに行って友達に会い
ディオニサを焼き殺し、その夫を捕まえようと考えました
彼らはあんなにひどく友情を踏みにじることができたのですから
- 577 このように決まると先達が指示を受けました
白装束の男の幻が彼に現れました
装った天使かもしれませんでした
彼の名を呼んで、そのような命令を伝えたのです
- 578 —《アポロニオよ、テュロスに行ってはいけない
まずエフェソスに行きなさい、そこに案内するよう命じなさい
着いて海から上がったら
私がどうしたら良いのか言おう
- 579 ディアナという聖堂を訪ねなさい
町の外の美しい平原にあります

そこには羊毛の衣服をまとった婦人たちが住んでいます
皆の中で一番善良な人がルシアナと呼ばれています

580 門のところへ行って、適当な時間だと思ったら
ノッカーを叩きなさい、すると修道副院長が出てくるでしょう
彼女はあなたがどんな人だか知って、婦人のところへ行くでしょう
う
そうすると中に住んでいる人たちがあなたを出迎えに出て来るでしょう

581 修道院長がお供をたくさん連れて出て来るでしょう
彼女は高潔な人なので敬意を表するように
彼女に神聖な櫃を見せてもらうように頼みなさい
そこにはその名誉ある聖堂の聖遺物が入っています

582 彼女はその場所を見せにあなたと一緒に行くでしょう
そこで大声話しなさい
あなたが陸や海で経験したことを全部
ひとつ残らず言わなければいけません

583 もしあなたがこうすれば利益を得るでしょう
フランス王国よりも価値のあるような利益を
それから大いに満足してタルソに行きなさい
幼い時の苦悩をすべて忘れるでしょう》

584 話を引き延ばすのはよしでしょう、無駄でしょうから

アポロニオは目を覚して考えてみました
それからその通りに命令を果たしました
すべてが幻で見た通りでした

- 585 アポロニオが自分の不幸と苦しみを語っているあいだ
ルシアナは祈りを唱えようとは思いませんでした
彼女は話とその不思議を理解しました
彼女の喜びで修道院ははち切れそうでした
- 586 ルシアナはアポロニオ王の足元にひれ伏して大声で言いました
—《ああ、アポロニオ王よ、あなたは私が誰だか分らないと思
います
あなたにここで会おうとは決して思いませんでした
私が誰だか知ったら、喜ぶと思います
- 587 私はあなたの死んだ妻です
あなたが海に流し、死んだと思っている妻です
アルチトラストレス王の娘でとても愛されていました
ルシアナという名で、生きて守られています
- 588 私はどんなにあなたを愛したかあなたが知っている妻です
私が重い病で伏している時にあなたは用件があって私のところへ
来ました
私に求婚している三人の手紙を届けてくれました
私は知っての通りのことを書いた書面をあなたに渡しました》

589 ―《分かりました、とアポロニオは言いました、この話をすべて》

彼はもう少しで喜びで気を失うところでした

二人は大いなる幸福のうちにお互いを見ました

というのは神が彼らに大いなる恵みと勝利を与えたからです

590 彼らは起こったことをお互いに話し合いました

それぞれ何を失い、あるいは何を得たかを

アポロニオは医師に非常に満足し

アンティナゴラとタルシアナも彼にとっても感謝しました

591 しかしタルシアナを夫も父も

母の腕から引き離すことはできませんでした

完璧な友であるアンティナゴラは喜びで

まるで彼女の兄弟のように泣いていました

592 医者らはした事を後悔していませんでした

なぜならルシアナに非常な熱意を注いだのですから

人々は彼の望むどんな贈り物でもしようとしました

しかし彼は良い評判を得るために何も受け取ろうとしませんでした

593 エフェソスの町に大きな喜びが広がりました

この事で皆が喜んでいました

しかし修道院の中では婦人たちが泣いていました

というのはあのお方が行ってしまおうとしているのではないかと

恐れたからです

- 594 彼らは好きなだけここに住んで
一番良いと思う人を修道院長にしました
修道女たちに好きなだけ財産を残しました
王と女王が立ち去ろうとした時に
- 595 彼らは海を渡るために船に乗り込みました
エフェソスの人々には良き隣人³¹⁾がいなくなって残念なことで
した
彼らはすぐにタルソの港に着き
王も女王も満足して喜んでいました
- 596 彼らが船を降りる前に
町議会がそれを知り、一行を出迎えました
見たことも聞いたこともありませんでした
人々が一つのことにこんなに喜んでくり出すのを
- 597 人々は王を自分たちの君主のように迎えました
楽譜や記憶に頼って讃歌を歌いながら
彼らには昔の愛情がはっきり思い出されていました
しかしディオニサは彼らに悪感情を抱いていました
- 598 彼らが町に入ろうとすると
人々皆じっとして動こうとしませんでした
王は中央に入って行き、話し始めました

- 599 —《町議会の皆さん、私の言うことを聞きなさい、神があなたたちを祝福してくださるように
私が説明するまで、遮らないでください
もし私が誰かに悪いことをしたのなら、つまらない事でも
ここで、あなたたち皆の前でそれを言って欲しい》
- 600 すぐに皆が言いました、—《これが私たちの答えです
あなたのお陰で私たちは生きています、私たちはあなたを良く
知っています
私たちがあなたに約束したことは、変えるつもりはありません
あなたが何を命じようとも私たちは従うでしょう》
- 601 —《私がここに2回目に住むために来た時
一回目についてはあなたたちに何も話しません
私は生まれたばかりの娘を連れて来た
というのは母親は死んだものと思っていたから
- 602 私がそこに滞在することになった偽りの宿主たちに
私の莫大な資産で娘を育てるように預けた
その嘘つきどもは嫉妬から娘を殺すように命じた
しかし、彼らにとって不都合なことに、娘は逃げおおせた
- 603 私がもう大きくなったであろう娘を引き取りに戻ったとき
彼らは私に娘は死んで葬られていると言った
いま幸いなことに娘は生きて見つかった
しかしこの間私は大きな苦悩を味わった

604 もしあなたがこのことの償いを私にちゃんとしてくれなければ

私は、中庭であろうと屋内であろうと、タルソには入りません
そうならば私があなたたちにした善行をすべて無にすることになる
でしょう》

605 町議会はひどく混乱しました

お互いにまったく助言できませんでした
人々はディオニサがとてつもなく悪いことをしたと言いました
そのためうんと懲らしめてやる必要があると

606 デイオニサと夫が捕らえられ

鎖に繋がれ、財産は没収されました
彼らは人々に伴われ町議会にいるアポロニオのもとに引き出され
ました
まもなくこの事はすべて解決されました

607 デイオニサはタルシアナがそこに来ることを知らなかったので
以前のように固執していました

タルシアナは死んで、それが本当だと証明しよう
父親のアポロニオに言った場所に彼女は埋葬されていると言って
いました

608 それはウソだとすぐに町議会で証明されました

というのはタルシアナが座っている席から立ち上がったのです
彼女はすぐれており、その話はまったく道理にかなっていて

自分が被った労苦をすべて話しました

- 609 その事を証明し真実を見つけるために
テオフィロが町議会に来るように命じられました
彼は王の前で恐ろしくてウソがつけず
皆の前で本当の事を話すことになりました
- 610 町議会の前で真実が明かされました
どのようにして彼女を殺すことを命じたのか、それでいくら払ったのか
取り決められた金額をどのように支払ったのか
このことでディオニサはすっかり動揺しました
- 611 人々は猶予も何も与えませんでした
ディオニサは直ちに火あぶりに
それから夫は縛り首にされるために引かれて行きました
すべては昼食前のことでした
- 612 テオフィロにはましな刑が言い渡されました
なぜならタルシアナに祈る時間を与えたからです
命は許され、それは結構な褒美でした
彼は奴隷だったので自由が与えられました
- 613 王はこれが済むと町に入りました
人々は皆彼を盛大に迎えました
彼らは自分たちの意思に従って一時そこに住み

それから伝来の王国に帰って行きました

614 彼らはアティオキアに向かい、まもなく着きました
順風に恵まれ、好天候だったので
人々はアポロニオを待っていて、彼は望まれていたので
王に喜び、満足しました

615 人々は彼に王権とすべての要塞を与え
莫大な富を彼に積み増し
貴族たちは彼に自分たちの多くの宝石を与えました
悪王アンティオコスに災あれ

616 アポロニオは従臣の誓いと安全の保証を受け
王国の主となりました、大したものですよ
彼は謎を解いて少なからぬものを得ました
今までの不幸とは大違いでした

617 彼が王国で強力な君主になり
民が皆すっかり満足しているのを見て
王は思い切って人々に知らせました
王国を娘婿のアンティナゴラに譲ったことを

618 アンティナゴラの支配に民はとても満足でした
彼が善人でしっかりした判断力のある人だと知っていたからです
人々はすぐに彼を喜んで快く受け入れました
アンティナゴラは自分が間違った結婚をしなかったことをすでに

知っていました

619 事がすっかり落ちつくと

整った町アンティオキアを出て

大勢を連れてペエンタポリスに戻って来ました

妻、娘婿、結婚した娘をつれて

620 彼らはアルチトラストレス王から喜んで迎えられました

というのは死んだと思われていたからです

少なくとも丸 15 年経っていたので

彼らがそこを出たときから考えて

621 人々も町も大喜びでした

皆陽気に、— “何と良い日なんだ” と言いながら歩いていました

皆喜びの言葉を口ずさんで

非常に高価な服を道端に吊るしていました

622 彼らの王は以前から年をとっていて

息子も兄弟もありませんでした

その事で民はとても悲しんでいたところでした

その手に接吻する君主がいなくなるわけですから

623 それで喜んでいたので、もっともな事でした

王の血筋から後継者が出なくなるところでしたから
忠実な臣下のように考えていたのです
周知のことに陥るのではないかと

624 彼らの喜びを誰があなたたちに語れるでしょう
皆が服と履物を新調し
めかしこむために風呂に入りました
理髪屋は髭を剃るのに忙しくなりました

625 家々から煙がたっていました、ご馳走を作っていたのです
野生動物の肉を多量に用意しました
塩漬けの豚肉、牛肉、新鮮な肉や干し肉
若鶏や雌鶏はお金がかかりませんでした

626 人々が全員毎日祈りを捧げました
アポロニオ王に子供が生まれるように
天の神にその熱意が伝わり
ルシアナは懐妊し男の子を産みました

627 人々は神が与えた男の子に
非常に喜び、安心しました
しかももなく喜びは暗転しました
完璧な王アルチトラストレスが死んだのです

628 人々が味わった悲しみについては語りたくありません
それを忍んだ人たちに任せておきましょう

私たちは今まで通り進み、話を終わらせましょう
そうしないと、私たちは何も知らないのだと言う人がいるで
しょうから

629 王がこの世を去ると
彼にふさわしく、気品のある埋葬が行われました
王の統治と権限のすべてが
アポロニオに、準備ができており、引き継がれました

630 降りかかるすべての仕事にもかかわらず
約束した事を忘れませんでした
彼を受け入れてくれた漁師を覚えていました
その漁師は彼に服を引き裂いて与えたのでした

631 王自身が彼を、どこに住んでいるのか知っていたので、迎えに行
きました、
遠くに目を据えると彼がどこにいるのか見えました
王が彼を探している
待っているので来るようにと告げさせました

632 漁師が貧しい身なりでやって来ました
というのは以前にも増して豊ではなかったからです
彼は王に非常に格式高く迎えられ
まるで金持ちの伯爵に対する丁重な心遣いのようなのでした

633 王は直ちに彼に立派な服と

下男下女と上等な馬

多くの広大な野とブドウ畑

山々、家畜、非常に大きな牧草地を与えるように命じました

634 王は彼に莫大な財産と住む家を与えました

彼が継ぐことになる一つの町全体も

それは決して誰にも従属することのないものでした

もし彼が満足しないなら、王にもその子孫にも

635 三位一体と呼ばれ、現存し支配したもう神が

すべての困った人にこのような宿主を与えてくださいますように

このような寛容な人である宿主に幸いがありますように

彼は泊めてやった人に同じような素晴らしい褒美を与えることになるのです

636 人々は生まれてきた男の子に敬意を表しました

その子には祖父と同じ名前が付けられ

立派な若いブドウの畑のようにとても大掛かりな警備が付けられました

人々はその子に気を留め、喪の悲しみを忘れました

637 幸せ者のアポロニオ王は

与えられたしっかりした基盤を持って事に当たりました

というのは娘に由緒正しい結婚をさせたからです

あなたたちが聞いているように、しっかりした婿でした

- 638 彼らすべてを魂の王に託し
天の主の恵みに委ねて
王は非常に忠実に仕える王妃とともに
故郷のテュロスに戻りました
- 639 テュロスの人々は皆彼がいなくなってから
悲しみに沈み、常に苦悩の内に生きてきました
彼らがよく分からなかったためではなく
神が望まなかったのも、彼にその事を話すことができなかったの
です
- 640 人々が王を見たとき非常に喜びました
牢獄から解放された人のように
彼を目で見たのですが、信じられませんでした
近くに来るまでは疑っていました
- 641 彼らといることが王には喜びであり、彼らには王といることが喜
びでした
まるで天使ガブリエルが彼らのところに降り立ったようでした
覚えておいてください、民は正しく、忠実だったのです
彼らは、よく覚えておいてください、新しい王を迎えようとしな
かったのです
- 642 王はすべての事がうまくいっているのを見ました
人々は争いがなく、町々にはちゃんと人が住み
仕事がいっぱいあり、金蔵は満ちていました

去るときに少女だった者たちが結婚しているのを見ました

- 643 王が民をテュロスの町に集めるように命じると
そこに多くの善人と多くの富んだ権力者がやって来ました
彼らに王は自分の身の上となんで
こんなに戻るのが遅れたのかを話しました、事実でした
- 644 王が味わった苦労が彼らを打ちました
海でも陸でも非常に難儀したのです
しかし首尾よくすべてから逃れてからは
起こったことはすべてどうでもよくなりました
- 645 —《王様、と皆が言いました、あなたは多くの物を失いました
冒険を求めて非常な不幸を被りました
しかし我々は皆その事は忘れるべきなのです
というのはあなたは非常な恩恵と非常な名誉を受けたからです
- 646 あなたの敵であったアンティオコスの権力は
あなたに屈し、貢ぎ物をするようになりました
ペンタポリスにおいてあなたはご子息を代理に任じました
あなたの土地であるタルソとミタレナはごまかしがありません
- 647 それで一番重要なのはあなたがそのような王国を建てたことです
それは非常に近しかったタルソの人々は知っており
そこでは我々は信じ、心が我々に告げています
あなたの国は決し貧しくなることはないと

- 648 あなたは幸運により十分にやってきました
見知らぬ土地であなたは十分に苦しみました
事を良い状態に持って行ったのですから
王様、これからは安心して休息すべきです》
- 649 王は彼らに答えました—《あなたたちのことは嬉しく思います
私はあなたたちに非常に良く助言を受けていると思います
本当の事を言うと、私はとても疲れています
これからは私が得た物を享受していきたいと思います》
- 650 この良き王は神が与えてた命を全うしました
彼は妻と共に穏やかで楽しい人生を送りました
この世を去るときが来ると
良き王として良き最後を迎えました
- 651 アポロニオが死んで、私たちの番です
いくら愛着があっても、終わりがくることを忘れないようにしましょう
この世ですることは、あの世で受け取ることになるでしょう
私たちは皆あの世に行き、決してこの世に戻ることはないでしょう
- 652 私たちがここに残すものは、他の人が享受するでしょう
私たちが避けたことは為されないでしょう
私たちがすることは私たちを助けてくれるでしょう
というのは他の人がすることは後になってから私たちを利するか

らです

- 653 私たちが魂のために与えようとしなかったものを
私たちが残していく人々がきっと欲しがらるでしょう
私たちが死者に供え物をしても
私たちの死後は彼らはしてくれません
- 654 私たち人間は嫉妬のために分別を失います
受けた恩恵は忘れてしまいます
他人のために蓄えても感謝されません
富は他人のものになり、私たちは笑い者になります
- 655 話は終わりにしましょう、話を引き延ばすのは止めにしましょう
私たちがこの世にいる日々はわずかでしょう
私たちがこの世を去るとき、どんな服を着たらいいでしょう
神の宴に行くのでなければ、あの私たちが信じている方の
- 656 風と海を支配したもう主^{しゅ}が
私たちに恵を与え、私たちを導いてくださるように
主が私たちに考えたり行ったりさせてくださるように
主の慈悲によって私たちが救われることができるようなことを
- 分別ある者は答えてアーメン³²⁾というように

完

注

- 31) ルシアナのこと
 32) ヘブライ語で「^{まこと}真に」の意

参考図書・辞書

- Libro de Apolonio Edición de Manuel Alvar Editorial Castalia 1976
 Libro de Apolonio Odres Nuevos Editorial Castalia 1969
 Libro de Apolonio Edición de Dolores Corbella Cátedra Letras Hispánicas 2011
 アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 1991
 Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
 Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfópolis 2002
 Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A. Kasten and Florian J. Cody TheHispanic
 Seminary of Medieval Studies New York 2001
 Diccionario de la Lengua Española Real Academia Española Espasa 2001
 スペイン語大辞典 白水社 2015